

映画

# ブーンミの島

朽木上映会

ブーンミ  
宮古諸島の苧麻績みと  
糸づくりに携わる人々の  
いとなみの記録

2025年 **3月2日** (日)

開場13:30 開演**14:00** 終了**16:10**

朽木やまびこ館 大ホール

参加無料

(滋賀県高島市朽木市場 792)

定員 200名

お申込みはこちらから

QRコードからのお申込みが  
難しい方は裏面の電話番号へ  
ご連絡ください



宮古諸島では、苧麻をブーと呼ぶ。苧麻を栽培し、繊維を取り出し、糸績みと染色をし、宮古上布の原材料にする。苧麻糸を手で績むことを、ブーンミ(苧麻績み)と呼ぶ。本作は、おおきく分けて2つの映像からなる。1つ目は宮古諸島における苧麻糸づくりの生産工程(栽培から糸づくりの終わりまでと、藍染め)の映像。2つ目は、苧麻糸づくりに携わる人々が、想いや生きざまを語る映像である。

これらの映像を通し、①手績みによる苧麻糸生産の現状 ②生産技術伝承の方法 ③自然との関わり ④祭祀や行事に携わる苧麻生産従事者たちの精神世界—といった多様な観点から、「苧麻手績み糸」に光をあて、厳しい自然の中でたくましく、たゆまず続けられる島のいとなみを紹介するものである。

—「ブーンミの島」監督 春日聡

映画/ブーンミの島 2023年/112分

監督/春日聡 製作・著作/国立歴史民俗博物館

- 宮古芋麻績み保存会の活動
  - ・各地の教場で開かれる芋麻績み講習会の様子、芋麻糸展示会の情景。
  - ・宮古芋麻績み保存会、宮古織物協同組合、宮古上布保持団体が合同で行う、宮古上布の創始者とされる「稲石」を祀る「稲石祭」の様子。
- 芋麻生産の工程
  - ・撮影を進める中で人脈がつながり、ご縁をいただいた保存会会員以外の芋麻生産従事者の人々による、芋麻の栽培、糸づくり工程、藍染めの工程。
- 年中行事や祭祀
  - ・芋麻生産従事者による年中行事、および、御嶽（各部落における拝所）や聖域でおこなわれる祭祀への奉職・参列の様子。（沖縄県では、行政区分て言う「字」以降の地域名称を一般的に「部落」と呼ぶので、それにしたがう。）
- 藍の生産
  - ・沖縄本島、国頭郡本部町伊豆見における琉球藍の生産の様子（宮古上布の藍染め原材料として重要）。
- 人々の語り
  - ・ブーやブーンミについての知識や経験、技術伝承の方法、自然との関わり、島の暮らしに関する思い出話、生きざま、宮古の文化に関する多様な「語り」。

## 上映会の主催 / 朽木の知恵と技 発見プロジェクト

高島市朽木地域の山村では、木綿が普及するまで「麻」が主な衣類として自家製で作られていました。麻の繊維は強く、茨にひっかかっても破れず、肌触りが良く、汗をかいてもべとつかないので、夏冬共に山仕事用の衣類として重宝されました。春になると、どの家でも四〜五畝（一畝は約99㎡）程の麻が栽培されました。夏に収穫し、麻蒸して皮を剥き、灰汁で煮た後、細く割いてつないでいく。糸によりをかけ、ノノバタで織り、ひと冬に一反（着物一着が仕立てられる程度の量、幅約36cm×長さ約12m）ほどを自給する技術が継承されていました。朽木の布づくりの生活文化や技術は地域の貴重な文化遺産です。しかし、時代の流れとともに消滅しつつあり、今はわずかながら布を織っていた風景を知る方や道具が残されています。

朽木の知恵と技発見プロジェクトは、かつて四季の暮らしとともにあった糸づくり、布づくりを学びながら、毎年わずかでも手を動かして作ることを実践し、関心のある方に伝える活動をしています。この上映会を通して、朽木の生活文化や当プロジェクトの活動に興味を持っていただけたら幸いです。



カラムンから繊維を取り出すオコキ体験



カラムン繊維をつなぐ芋麻績み体験



芋麻績みした糸の撚りかけ体験

### 上映会場「朽木やまびこ館」へのアクセス

- JRとバスで / JR 湖西線で安曇川駅へ（京都駅から新快速で約40分）  
安曇川駅から江若バス朽木線で約30分 - 朽木学校前下車
- 京阪出町柳駅から / 京都バス朽木学校前行きで約1時間30分
- お車で / 隣接する「道の駅くつき新本陣」の駐車場をご利用ください

### 情報、お問合せ先

- 📌 朽木の知恵と技発見プロジェクト
- 📷 kutsukichiewaza
- ✉ kutsukichiewaza@gmail.com
- ☎ 090-9057-1973(担当ダイヤル)